

NIPPON

かわら版

58号



日本製紙

発行所 東京都千代田区神田駿河台4丁目6番地 〒101-0062 日本製紙株式会社新聞営業本部 電話 03-6665-1030 FAX 03-6665-0319 www.nipponpapergroup.com/newsprint@nipponpapergroup.com ©日本製紙株式会社2015



5年ぶりに 新聞営業の前線に

日本製紙株式会社
執行役員 新聞営業本部長 前田 高弘

平素は日本製紙製品にご愛顧を賜りありがとうございます。また、弊社営業・品質担当者をお引き立て頂き心より御礼申し上げます。責任と課題の重さに改めて身の引き締まる思いの中で、執行役員新聞営業本部長を拝命しました。どうかよろしく申し上げます。

新聞用紙という ライフラインの緊張感

約30年前、初代の新聞用紙営業本部長に新聞用紙事業の「安定納入」「安定品質」「安定コスト」の基本三原則の薫陶を受けました。よく「安定供給」といいますが、この言葉には「供給してあげる」というおごったニュアンスがあるから、「安定供給」でなく「安定して納入させて頂くのだ」と教えられました。

36年間の会社生活の中で、ノーバックを現地で担当した4年、鋼路工場に勤務した3年、関西営業支社長を務めた2年を含めて31年間を何らかの形で新聞用紙事業に携わってきました。A巻とD巻を間違えてしまった新米デリバリー、朝刊印刷立会いの緊張、二度の会社合併、代理店を経由しない直販化、本紙の前身である「有楽町かわら

版」の編集、一般洋紙も担当する「新聞営業本部」化、古紙の高配合、新聞用紙の中性化などチャレンジの尽きない時間であったと思っています。2008(平成20)年には28年ぶりの新聞用紙価格の改訂を部長として経験させて頂きました。東日本大震災を経て死語になりかけていたこの基本三原則がよみがえったような気持ちがしています。

新聞発行業界はインターネットの進展、購読部数の減少、頁数の低速など構造的な厳しい課題を抱えておられます。はんなりする情報もSNSの進展の中で、個人の情報発信や共鳴の世界が可能になってきており、マスでもないパーソナルでもない、新たな情報提供網の構築が可能になってきているような気がしています。マスメディアである新聞に情報の取捨選択を任



せて安心という基本的な信頼感は揺るぎないものと信じています。しかし仲介者(メディア)を介在しなくても個人レベルから「多数」のレベルへの情報伝達や、個々のつながりの願望が実現出来るような社会になってきているように感じています(参考「キュレーションの時代」佐々木俊尚氏著/ちくま新書)。こういう社会変革の中で、民主主義の発展はどうなってしまうのかという不安もあります。

資源循環の輪と 新聞を読む作法を守りたい

一方、新聞社との「共存共栄」という言葉を今こそ再確認する時を迎えているように思います。日本製紙は古紙パルプの高配合や用紙の軽量化、ゲートロールによる印刷適性改善、炭酸カルシウム配合による中性化・高品質化で新聞用紙

の品質を常にリードして安定納入・品質・コストの責任を果たしてきました。これらは、当社単独で実現出来たものではなく、新聞社のご支援やご協力があったて実現出来たことです。更には人口密度の高い土地で、新聞販売店網が充実している、美しい紙面を求める読者が多数居て、清潔を好む国民性が強く、省資源・省エネルギーへの社会的要請などの条件が見事に重なって、高度なりサイクル社会を新聞用紙事業の中に築いてきました。この循環の輪は他国の経済状況や金利や為替レートにもあそばれることなくきっちりと守り育てていく必要があるように強く感じています。

また、各社がNIEに取り組み、子供向け新聞の発行も盛んです。新聞を読まない親から新聞を読む子供を育てられるか、新聞の読み方をどのように世代間で

伝えていかねばならないと思います。家庭や学校、地域で新聞を広げて会話を進めながら、新聞の読み方という大切な作法を継承させていく必要があるように感じています。文章を読む、国語力を付ける、自分の考え方を確立する、こういう基本は時代を乗り越えて次世代に継承していく必要があります。スマートフォンやiPadを静かに一人でもぞっている風景と確実に違う世界が広がるように思います。言葉によるコミュニケーション能力の育成、話し合いや議論の場の醸成に新聞を広げて読むということが大いに役立つと信じています。

新聞用紙という重要なライフラインを担っているのだという緊張感とスピード感を改めて感じております。ご指導とご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



赤津前本部長退任のご挨拶

私は、先の6月26日付で日本製紙の執行役員を退任し、関係会社である日本製紙総合開発(株)の取締役社長に就任しました。新聞営業本部長として4年3カ月の在職でしたが新聞社の皆様はじめ流通、物流会社の皆様には大変お世話になり心より御礼申し上げます。

振り返れば東日本大震災後に災害復興対策本部発足の関連人事で3月17日付にて情報産業用紙の本部長から異動してきました。当時は岩沼工場が被災し、かつ輸送手段が確保出来ないという混乱の中、日本の新聞生産能力の約15%に相当する設備が停止し、再開の見通しがたない厳しい状況下にありました。新聞用紙の「安定供給」の危機に直面し、日本製紙連合会新聞用紙委員会として新聞協会を通じて各新聞社へ「用紙使用の抑制」を要請しご協力をお願いしました。用紙メーカーとしては前代未聞の申し入れでしたが、幸い各メーカーの増産体制と岩沼工場の懸命な復旧活動、そのうえ国内の自粛ムードも重なり結果として大きなトラブル

もなく難局を乗り切ることが出来ました。これもひとえに新聞社様のご協力のおかげと感謝しております。

今回の震災で改めて感じたのは「伝える」という新聞の果たす役割の重さです。情報手段を遮断された被災地では避難所に届く新聞をむさぼり読む読者の姿がありました。読者は混乱や不安の中で真に信頼出来る情報を求めており「頼りになるのは、新聞」との思いを強くしたのではないのでしょうか。

現在、新聞の部数は少子高齢化、無読者世帯の増加、若者の新聞離れ、IT化などの構造的要因もあり大きく減少していますが、紙の新聞が持つ一覧性、携帯性、五感への優しさなどは普遍であり、新聞に対する読者の信頼も高水準を保っています。変化の激しい世の中だからこそ読者に分かりやすく伝える「紙の新聞」の特性が一段と輝きを増していくと思います。

最後になりましたが、公私にわたる格別のご厚情に感謝すると共に各社のご隆盛をお祈り申し上げます。

工場長に聴く 『多種多様な紙の生産を通して、 お客様とのふれあいを大切にしたい』

執行役員 北海道工場長 今野 武夫

2010(平成22)年に勇払・旭川・白老の3工場が一体となって発足した北海道工場に取材に伺いました。取扱製品も印刷用紙から食品関連まで幅広い製品群を有する工場です。今野工場長から「チャレンジ」をキーワードに各事業所運営を行っている様子をお聴きしました。(インタビューアー かわら版NIPPON 元編集委員 池田 隆男)

特徴ある事業所群

勇払・旭川・白老の3事業所から北海道工場は形成されており、段ボール原紙を除く多彩な紙を皆様にお届けしています。新聞用紙は勇払の6号マシンで生産しており、原料→調成→マシン→出荷設備が効率のよいレイアウトで作業を行っています。食品関連用紙では異物対策として、マイクロフィルターでの水の濾過、ネット帽子の着用、二重ドア設置による建屋と外部との気圧差を利用した防虫対策を行っています。また、白老では世界水準の事業所への発展を見据え、ISO9001取得やFDA(※1)基準に対応する生産体制の準備を進めています。旭川事業所はFSC(※2)取得を計画し日々運営しています。

現在、新聞を含む印刷用紙市場が縮小するなか、北海道工場も同様に苦戦しています。このような状況を打破すべく3事業所それぞれで働く人や物(設備)、情報(技術)をうまく活用した工場運営を行い、付加価値を持った新製品の開発や品質管理の強化を通してお客様から選ばれる工場へ進

化し、この難局を乗り越えたいと考えています。
※1 FDA:米国食品医薬品局の略。
※2 FSC:世界規模で森林認証を行う非営利の国際NGOの略。

これからの新聞用紙を見据え

これまで以上に薄物化が進むと予想しています。懸念されることとして、品質面では不透明度の低下、操業面では生産量の減少や用具の汚れなどがあげられます。幸いにも勇払6号マシンは3丁取と小回りが利く機械なので状況に合った対応が出来るかと確信しています。

乗り越えなければならない課題はありますが、お客様との信頼関係を維持するにはきちんと問題に向き合い、技術のレベルアップに取り組みたいと思います。

将来の北海道工場像

北海道工場となり5年が経ちました。3事業所の運営方法を見直す時期が来ていると感じています。

将来像では、勇払・旭川では産業用紙の更なる生産拡大や小規模マシンを生かした小ロット多品種製造へ

の転換、差別化製品の新規開発にチャレンジをします。白老は平判の加工能力が当社最大である強みを生かし、更なる競争力アップに磨きをかけます。新聞用紙を生産している勇払においては安定した新聞用紙の生産を中心に、勿来工場向け原紙・産業用紙などバランスの取れた工場運営を行っていきたく考えています。

新聞用紙とのかかわり

新入社員の時から新聞用紙と縁があり、初配属先は釧路工場技術室、8号マシンの製品の水分測定を行っており、社会人のスタートが新聞用紙担当でした。その後、石巻工場でN3マシン(既に停機)にかかわった時は、地合いは日本一良かったマシンと自負していましたが、新聞用紙のパタツキ問題に長期間悩まされました。なかなか改善されずお客様のところへ足を運



西馬工場長

び印刷立ち会いを行い対策に従事した時期もありました。また、東日本大震災時は岩沼工場で勤務していました。幸いにも津波の被害は受けず震災1カ月後には3号マシン操業開始、2カ月後には全面復旧が出来ました。地震発生時は、製品の倒壊も想定しましたが、新聞用紙(A巻)はほとんどが崩れておらず想定外の出来事だったと記憶しております。在庫があっても出荷が出来ないことで、お客様にはご迷惑をおかけしました。

休日には運動と観光でリフレッシュ

夏場はゴルフ、冬場はスケートを楽しんでいます。新入社員時代には釧路でアイスホッケーをしていましたが、ブランクが長かったため、感覚を取り戻すべく練習に励んでいます。勇払では釧路工場との交流戦も行っており、早く試合に出場出来るレベルに復帰したいです。ゴルフは勇払の敷地内にあるコース(9ホール)でもプレーしています。皆様もお時間があれば事業

所見学のみならずゴルフコースも見て頂きたいと思えます(プレーも可です)。また、出身地が道東だったこともあり、道央の各名所も楽しんでいました。この地域は有名な馬の産地に近いこともあり初めて乗馬を経験しました。せっかくの機会ですのもう少し乗馬のレベルを上げたいと考えています。

全国のお客様へ一言

勇払事業所の新聞マシンは小ぶりですが、品質対応には機動性があります。お客様からのご要望を迅速にお応え出来る体制と自負していますので、当社営業へご希望をお伝え頂ければ、即対応を取って参ります。また、北海道工場は多種多様な紙を生産しています、少量でもお客様とかかわりがありますのでぜひご愛用をお願い致します。

最後に、勇払は千歳空港からのアクセスが約30分と近いので、お気軽に当工場へお越し頂きますようお願い申し上げます。

新聞社印刷所訪問 VOL.37

株式会社タイワ(読売新聞仙台工場)

今回ご紹介いたします印刷工場は、東日本大震災で閉鎖を余儀なくされた旧読売新聞仙台工場に代わって、復興のシンボルとして建設されました「株式会社タイワ(読売新聞仙台工場)」です。本年3月に稼働しました印刷工場は、読売新聞、スポーツ報知、産経新聞など5媒体を印刷し、仙台市を中心に東北エリアに配送しています。「停めない印刷工場」をコンセプトとし、様々な震災対策を取っている新工場について、工場長の西馬様にお話を伺いました。

かわら版NIPPON 編集長 佐藤 貴光 編集委員 中嶋 利昌



〒981-3629 宮城県黒川郡大和町テクノヒルズ51番地 TEL.022-346-5321(代)



ユーザーインタビュー



西馬工場長

す印刷が可能で、小型化された省電力タイプです。



東京機械製作所製カラートップエコワイドII

立体紙庫や無人搬送車AGVについては、IHIの紙庫給紙システムを採用しています。設備の立ち上げも、非常にスムーズで、これ程トラブルの無い立ち上げは記憶にない程でした。現在まで安定的に稼働しておりますが、機械についてはこれからは本番だと考えております。



IHI製無人搬送車AGV

また、5媒体を印刷する当工場では、一晩に15回立ち上げを行っており工程は非常にタイトです。ミスの発生が無いよう、従業員で知恵を出し合って工夫しています。旧仙台工場が閉鎖となった時に、従業員達が複数の工場に分か

れて仕事をするようになったのですが、今回工場を立ち上げるに当たり、それらのメンバーが新工場働きたいと戻って来てくれました。これが工場全体の高いモチベーションにつながっており、非常にありがたいと感じています。

災害対策について教えてください

当工場は「停めない工場」というコンセプトのもと、BCP対策に力を入れています。読売新聞の印刷工場として初めて免震構造を採用し、基礎に3種類の免震装置を使用することであらゆる揺れに対応しています。



高減衰積層ゴム

非常電源としては重油を使用する自家発電を保有しています。この自家発電用として約72時間(2セット分換算)稼働可能な燃料も備蓄しています。立体紙庫にはSL70連A巻を最大110本在庫することが出来ます。

また、協力会社を含めた従業員約50名が困らぬよう飲料水、非常食を常備しています。自動販売機も、人数に対して多目の4台を設

置し、非常電源を利用して災害時でも常に使用出来るようにしております。このように、様々なBCP対策を取っており、災害時には従業員にとっても安全な工場であると自負しています。



立体紙庫

今後の印刷所運営について教えてください

当工場で印刷される新聞は、あくまでも各新聞社から預かった商品です。我々が印刷したものは、最終消費者である読者の皆様へ届く訳ですから、品質向上に対するあくなき追求心を持たねばなりません。また、時間に対する意識も重要です。決まった時間にお届けするために、刷了時間を毎日しっかり守ることが信頼につながると考えています。

印刷は、とすれば日々決められた作業の繰り返しになってしまいがちです。プロフェッショナルの集団として、当たり前のことを当たり前に繰り返すことが出来る工場であるよう、皆のベクトルを合わせて行きたいと思っています。

CLOSED LOOP <損紙クローズド・ループ新システム導入>

仙台工場様では、印刷時に発生する損紙(古紙)を、日本製紙が直接購入する「損紙クローズド・ループ・システム」を導入しました。当該方式の導入は業界初の取り組みとなります。

今回導入したスキームでは、読売新聞社様が「株式会社この」様に損紙の回収・運搬・ペール化を業務委託し、日本製紙が「この」様からペール化された古紙を引き取ります。古紙の売買は、読売新聞社様と当社の間で直接行われます。

新聞用紙生産に使用されるパルプの約70%は古紙由来のパルプです。近年、中国を始めとする海外への輸出により価格が上昇している他、新聞古紙の発生量減少により必要量の確保が従来に比べて難しくなっています。

これらは新聞事業の大きな課題となっており、当社は、今後も同様なシステムを拡大し、新聞古紙の需給安定化に向けて取り組んでいきます。



原材料から抄紙・出荷までが直線に配備されている勇払6号マシンの建屋

初めてオンデマンド印刷を採用 かわら版NIPPON58号は 各地区計6版にて発行しています

今号のかわら版NIPPONでは初めての試みでオンデマンド印刷を取り入れ、本社と営業支社のある各地区計6版にて発行しています。8面の日本製紙グループ会社紹介では、各地区に根差した地元の工場・会社を取り上げ、12面の編集後記は各営業支社のかわら版編集委員が執筆を担当しました。地域の特徴が出て、皆様にかわら版NIPPONをより身近に感じて頂ければ幸いです。

デジタル印刷機や新聞輪転に搭載出来るインクジェットプリントヘッドによって、新聞業界でも多品種小ロットに対応可能なオンデマンド印刷に関心が高まっています。印刷機械の進化と共に、別刷り・エリア広告・受託印刷媒体など、今後の活用方法が期待されています。



Océ ColorStream 3700Z

印刷機械

今号の印刷は、朝日新聞東京本社に国内の新聞社で初めて導入された連帳式デジタル印刷機「Océ ColorStream 3700Z」にて印刷して頂きました。機械の特徴として、下記の4点があげられます。

- フレキシブル (バリエブル印刷)**
1 連続して一部一部異なる紙面を印刷することが可能。
また新聞ごとに通し番号を入れたり、部分的に情報を入れ替えることも可能。
- コンパクト**
2 これまでの高速輪転機に比べ、コンパクトに設置出来る。
将来的には更に省スペースが期待される。
- スピーディー**
3 刷版を使用しないため、小部数の印刷が早い。
- エコロジー**
4 インクジェット印刷のため、刷り始めの損紙が少なく環境にも優しい。

8面
バリエブル印刷紙面

8面 日本製紙グループ会社紹介 掲載各社

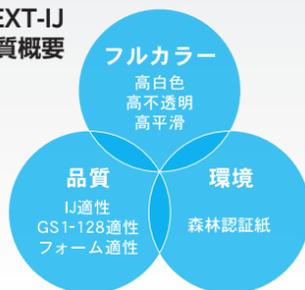
| | |
|----------|---------------------------------|
| 北海道営業支社版 | 日本製袋(株)旭川工場、道央興発(株) |
| 東北営業支社版 | 北上製紙(株) |
| 本社版 | 日本製紙総合開発(株)、(株)ジーエーシー |
| 中部営業支社版 | 日本製紙クレシア(株)興陽工場、日本製紙パピリア(株)原田工場 |
| 関西営業支社版 | 日本製紙パピリア(株)高知工場、日本製紙クレシア(株)京都工場 |
| 九州営業支社版 | 日本製紙総合開発(株)九州事業部 |

デジタル印刷機によって、将来的には今まで小部数で実現出来なかった社内にあるコンテンツの2次利用や新商品開発を目指されています。また、地方の新聞を東京地区で発行する際には、この機械で現地印刷することで輸送コストをかけずに、早朝に新聞配達が可能になります。紙媒体である新聞の可能性を模索し、新たなニーズに応えられるよう挑戦が続けられています。

かわら版NIPPON58号 使用紙紹介 NPiフォーム **NEXT-IJ**

インクジェット連帳機の高性能化に伴い、従来の利用明細書や取引明細書だけでなく、ダイレクトメール、カタログ、出版、教材などの印刷にも用いられるようになっており、適用分野が広がっています。当社「NPiフォーム NEXT-IJ」は、高白色・高不透明といった紙質特性をベースに、高発色性・速乾性といったインクジェット適性を付与した上質IJフォーム用紙として、これらの各種用途に採用されています。また、多数のインクジェット連帳機に適応しており、上質IJフォーム用紙における国内スタンダード紙としてご使用頂いております。

NEXT-IJ 品質概要



NPi フォーム NEXT-IJ 規格表

| | | | | | |
|---------|------|------|-------|-------|-------|
| 米坪(g/m) | 64.0 | 81.4 | 104.7 | 127.9 | 157.0 |
| 連量(kg) | 55 | 70 | 90 | 110 | 135 |

製品概要

| | |
|-------------------|----------------------|
| フルカラー印字に対応 | 高白色、高不透明、高平滑 |
| 高性能インクジェット適性 | 高発色性、速乾性、耐水性 |
| GS1-128(EAN128)適性 | 高精細バーコード読取対応紙 |
| フォーム適性 | 加工適性、オフセット印刷適性、NIP適性 |

